

# 平成29年度 建設委員会視察報告書

建設委員会

委員長 横野 昭

1 視察期間 平成30年2月21日(水)

2 視察先及び視察事項

(1) 松川雨水貯留施設

「松川雨水貯留施設整備事業について」

(2) ライチョウ舎 (富山市ファミリーパーク)

「ライチョウ保護増殖事業について」

3 視察参加委員

委員長 横野 昭

副委員長 尾上 一彦

委員 岡部 享

〃 石森 正二

〃 押田 大祐

〃 金井 毅俊

〃 松井 桂将

〃 五本 幸正

4 随行職員

議事調査課長 福原 武

議事調査課主任 河原 絢加

## 5 視察概要

### (1) 視察事項

松川雨水貯留施設整備事業及びライチョウ保護増殖事業について

### (2) 視察の目的

予算執行を可決した事業について、実際に現場に赴き、整備の進捗状況や予算の適正な執行状況などの確認を行うことで、当該事業に対する理解をより深めるもの。

### (3) 取組みの概要

#### 松川雨水貯留施設整備事業について

本市の中心市街地である富山駅南側から城南公園付近までは、生活排水と雨水を同じ管に流す合流式下水道が整備されているが、大雨の際には全量の下水を流すことができず、一部が松川などの公共水域に放流されたり、集中豪雨による浸水被害が頻発している。そのため、松川の水質保全と浸水被害の軽減を目的とした松川雨水貯留施設の整備が平成24年度より開始され、今年度末に工事完成を予定している。

#### ライチョウ保護増殖事業について

ファミリーパークでは、国の特別天然記念物で絶滅の危機にあるライチョウの飼育繁殖に取り組んでいる。

平成27年3月に展示室や孵化育雛室などを備えたライチョウ舎（A工区）を整備し、さらに来年度以降に予定している人工繁殖による個体数の増加に備え、新たなライチョウ舎（B工区）の整備を進めており、今年度末に工事完成を予定している。

### (4) 所感

〔横野委員長〕

最終送水ポンプの設置状況や貯留施設や中継施設を視察し、被害を最小限度に抑えるためのマニュアルや降雨量による稼働操作の必要性を感じました。この設備に多額の投資をしたので、降雨量による安心度合いも増えましたが、設備の活かし方を間違えないように安心できるシステムに最善の努力を望みます。

特別天然記念物であるライチョウの繁殖技術の難しさを聞き、専門職員の増員も含め、期待される施設として最善の努力をしてほしいです。多くのライチョウが育って、アルプスの山々の賑わいに期待します。

〔尾上副委員長〕

松川雨水貯留施設は平成30年度より供用開始され、この施設の運開により、異常降雨時における総曲輪地区周辺の浸水被害軽減はもとより、下水道管の溢水による松川の水質汚染軽減も図れるとのことで、大変期待の大きい施設である。引き続き、異常気象への対応に力を入れて頂きたい。

富山市ファミリーパークで実施しているライチョウ保護増殖事業に伴うライチョウ舎建設では、ライチョウが生息する環境により近い環境で飼育できるよう様々な工夫がされており、本施設とこれまでの経験、そして今後の調査・研究により、良い成果が出るよう期待する。また、これらの事業が市民等に浸透するよう、広報にも力を入れて頂きたい。

〔岡部委員〕

近年全国各地で局地的に激しい雨が降り浸水被害が多発しています。富山市においても平成20年に浸水被害が発生したことから「松川雨水貯留施設」の計画が進められ、計画通り今年度末から稼働することとなります。施設は、1時間あたり58mmの降雨を想定し設計され、丸の内の旧富山市図書館南側から西町交差点までの約1.1kmの区間に直径5mの貯留管を設置することにより、浸水被害が予測される松川南側の富山市中心市街地、約51.5ha地区で浸水被害の解消と軽減が図れるものと考えられ、市民の安心安全なまちづくりが進むことになりました。

富山県の鳥でもあるニホンライチョウを保護するため平成24年に国の「ライチョウ保護増殖事業計画」が策定され、富山市ファミリーパークでは、平成27年度より飼育繁殖に取り組んでいます。ファミリーパークの「保護増殖事業」は、乗鞍岳で採取した卵を孵化させ、その個体を親とした人工繁殖では国内最多となる10羽を飼育しており、高い技術が評価されています。今年度、新たに「孵化・育雛室」「飼育室」「冷温室」を備えたライチョウ舎の建設により、「野生復帰」を目指したライチョウ保護増殖事業の更なる前進が期待されます。

〔石森委員〕

「松川雨水貯留施設」は、1時間当たり58ミリの降雨を想定して、雨水を一時的に貯留しポンプで汲み上げて既存の下水道に送る能力は、浸水被害が軽減され地区の安全安心に繋がる。運用方法については、様々なデータを取り検証して構築をお願いします。

ライチョウの飼育繁殖の取組みは、国内最多の10羽の飼育であり、今回の施設では50羽の飼育可能であり「安定した飼育繁殖技術」「野生復帰を想定した飼育繁殖技術」の確立のため、3月に完成し生息域外保全を促進していただきたい。

〔押田委員〕

以前、大手町にある会社に勤務していたことがあり、大雨が降ると道路が水浸しとなり、ズボンや靴下、靴自体が濡れて仕事にならなかったことを思い出した。松川雨水貯留施設は住民の安心安全のみならず、まちなかという富山のランドマークをも守る施設であり、一刻も早い完成を期待する。

ライチョウ保護に関しては、国の予算も入れて富山のライチョウのみならず、日本のライチョウの保護に結びつく事業と聞いた。一度失うと二度と手に入れないものだけに、重要性も高い。計画成功のため、技術獲得等の調査研究に全力で取り組んでいただきたい。

〔金井委員〕

市民の暮らしに安全をもたらす施設であることが、十分理解することができました。これからは、地下に営業店舗を持つ方にとって安心と安全が担保されると同時に、地下街の発展につながると感じました。しかしながら、昭和44年の大雨（平野部200ミリ山間部1,000ミリ）を知る者として、河川の氾濫に対しての対策が理解し難く、今後の課題というか説明が必要と感じました。

環境未来都市としての役割を担う意味で、絶滅危惧種の「ライチョウ保護増殖事業計画」は、ライチョウの生息地を抱える富山市にとっては必要不可欠な施策と考えています。しかしながら、年間を通じた特別な空調設備に多くの予算が必要ですが、近い将来において「上野動物園のパンダ」のように、「ファミリーパークのライチョウ」として市民の皆さんにその愛くるしい姿をご覧いただくと同時に、小さい頃から環境問題に取り組んでいただけるように、この事業の成功を祈ります。

〔松井桂将委員〕

松川雨水貯留施設は、近年多発しているゲリラ豪雨対策に効果を発揮し、大雨や浸水から市民の身の安全と財産を守る上で効果を発揮するものとして6年の歳月をかけて間もなく完成する。約2年前、建設途中において地下15mに設置された直径約5m、延長約1.1kmの貯留管内に入る事ができた。巨大な管に水害軽減の期待を込めた。

次に、ニホンライチョウを保護する為、3月完成予定であるライチョウ舎へ視察し工事の進捗状況を確認した。園長より、飼育繁殖の取組みもお聞きし、卵から雛に孵るときに個体数も増え人的補充が、課題であるとお聞きした。

〔五本委員〕

豪雨のたびに総曲輪及び西町方面が浸水被害を受けたことから松川雨水貯留施設の工事が平成24年度より6年間の歳月をかけ平成30年度に供用開始を迎えることになりました。このことにより地域の安全、安心が確保できるよう運用と管理に努められたい。

ニホンライチョウ保護増殖事業の現場や施設の視察を致し、大変な事業であることを理解いたしました。ファミリーパークでは今年度富山で飼育している個体の卵で孵化した3羽が成長したと聞いています。職員の皆さんの努力に感謝です。今後一層の努力により増飼されることを願います。

松川雨水貯留施設



ライチョウ舎

